

低炭素社会と優良認定が鍵に

全産廃連ほか
第12回全国大会を開催



第12回を迎える全国大会

（公社）全国産業廃棄物連合会（石井邦夫会長）は（公財）日本産業廃棄物処理振興センター（岡澤和好理事長）と（公財）産業廃棄物処理事業振興財団（樋口成彬理事長）とともに11月8日、三重県伊勢市の伊勢志摩ロイヤルホテルで、第12回産業廃棄物と環境を考える全国大会を約600人集めて開催した。

環境省と三重県、志摩市が後援。運営などの協力を地元の（一社）三重県産業廃棄物協会を中心にして、（一社）岐阜県産業環境保全協

会、（公社）静岡県産業廃棄物協会、（一社）愛知県産業廃棄物協会がサポートした。

冒頭、石井会長があいさつに立った。今回の全国大会は、「低炭素社会」と「優良産業廃棄物処理業者認定制度」をキーワードにして、今後の産業廃棄物のあり方を考える場にあることを明らかにした。

来賓などのあいさつの後、環境大臣表彰式典に移り、平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者（産業廃棄物関係事業功労者）16人が表彰された。（関連記事6面）

産廃全国大会

環境大臣表彰、功労者16人

優良認定でパネル討論会も

「第12回産業廃棄物」の基調講演は「低炭素社会と環境を考える全国大会」



大会式典のようす

式典は、主催である日本環境衛生センター奥村明雄理事長の宣言

心なエネルギーの確保が期待されている。さまざまな取り組みが大

けた産業廃棄物処理」のテーマで東京工業大学総合研究員ソリュション研究機構特命教授の柏木孝夫氏が登壇、F1T対応時代の産業処理とエネルギー燃料利用の関係やごみ発電の未来について言及した。

パネル討論会は「優良産業廃棄物処理業者認定制度の普及のために」を主題に長沢伸也氏（早稲田大学大学院商学研究科教授）をコーディネーターに、パネリストには塚本直也氏（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長、和田一人氏（三重県環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課長、前山健氏（井村屋・社長）、井上吉一氏（一般社団法人三重県産業廃棄物協会副会長）を迎えて行った。

席上、平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者（産業廃棄物関係事業功労者）16人が表彰された。受賞者は、以下の通り。



環境大臣表彰の受賞者

・光アスコン、三ツ川卓生（大阪府・エスク三ツ川）、福井美樹男（兵庫・福井建設）、田籠英治（福岡県・都市資源開発）、村平頼宣（熊本県・熊本清掃社）、江藤正幸（鹿児島県・江藤建設工業）、本田昭（中央推薦・大光物産）、大濱徹（中央推薦・沖縄環境分析センター）——以上、16人。